もし、車に過度に依存したままなら、高知の将来図はどうなるのだろうとメンバーで考えてみました。車中心だから、中心市街地から機能はどんどん外へ行くだろう。他の都市に比べて高知市はコンパクトに町の中へまとまっていると評価されていますが、残念ながら外へ行っている最中で、まだ行き尽くしていない状況ではないかと危惧しています。県外の行き尽くした町は残念ながら夜の飲屋街だけで、昼はほとんどシャッターを閉めているという現状になっています。そうなって欲しくないと、本当に思います。400 年の歴史が作ってきた高知のまちの構造が破壊されて、町の個性を失うのではないかと考えています。あと、高知のような平地の少ないところでは､駐車場ばかりの用途とするのはもったいないと考えます。また、移動制約者と言われる方だけでなく、今は車を使えている人も将来に不安を抱えるのではないか。中山間地域では、まさに現在そういう状況にあります。そして渋滞や駐車場不足が顕著となり、さらに多くのインフラ投資や公共投資が求められるのではないか。でも、人口が減っていますので、完成した頃には結局要らなくなるのではないかと考えます。

公共交通網をもっと充実させて、車に過度に依存しないまちづくりをした場合も想像してみました。高知のまちの核は高知市中心部で、高知駅・はりまや橋・県庁前・高知城のあたりと考えます。まちの中心部に人が集まると、公共交通網もそこを中心に発達し、そこで乗り換えれば他のところへも行ける。そういう便利な乗り換えもできる公共交通網が整備されます。また、自動車交通が低減されますので、環境に配慮した都市としてアピールができるのではないか。移動制約者も一人で町へ出かけられます。実際、公共交通が整備された町では車いすのおばあさんが電車で一人で町へ出てきて、買い物をして、帰っていくのを見たことがあります。そういったことで、福祉の町としてもアピールできるのではないか。交通事故の減少にもつながる｡中山間地域の移動手段も公共交通網でサポートできるのではないか。ただしそのためには、町全体・地域全体で公共交通網中心の整備がされないと中山間地域まで効果が波及しないと考えますが、これらが実現することにより、高知の魅力は向上するのではないでしょうか。